

加茂市総合計画

基本構想（素案）

2021年2月15日作成

企画財政課

第1章	総合計画策定にあたって	1
	1. 総合計画策定の趣旨	
	2. 総合計画の性格・位置付け	
	3. 総合計画の期間	
	4. 総合計画の構成	
第2章	社会経済状況の変化と加茂市の特性・課題	2
	1. 人口減少と少子高齢化	
	2. 安全・安心への意識の高まり	
	3. 社会経済や構造の変化	
	4. 財政の深刻化	
	5. 公共施設の老朽化	
	6. 自然・文化・伝統	
第3章	市民意識調査	4
	1. アンケートについて	
	2. 市民ワークショップについて	
第4章	加茂市の目指す姿	7
	1. まちの将来像	
	2. まちづくりの基本目標	
第5章	まちづくり基本方針	9
	1. 人口減少に対応できるまちづくり	
	2. 連携と協働によるまちづくり	

※章については、検討中

○章 計画策定にあたって

1. 総合計画策定の趣旨

総合計画は、まちの将来像を描き、その将来像を実現させるため、市が取り組むべき施策の方向性を示すもので、さまざまな取組の基本となるものです。市民とまちの将来像と課題を共有し、協働して計画的にまちづくりを進めるために「総合計画(仮)」を策定します。

2. 総合計画の性格・位置付け

平成 23 年の地方自治法改正により、議会の議決を経ることの義務付けが廃止されました。しかし、総合計画は、まちづくりの基本方針として重要であることから、「基本構想」については、加茂市議会の議決を経て策定し、市の最上位計画とします。

3. 総合計画の期間

中長期的な視点に立って、市が取り組んでいく今後の施策の基本的な方向を示すため、基本構想は 10 年間、基本計画は前期と後期に分けて、それぞれ 5 年間とします。

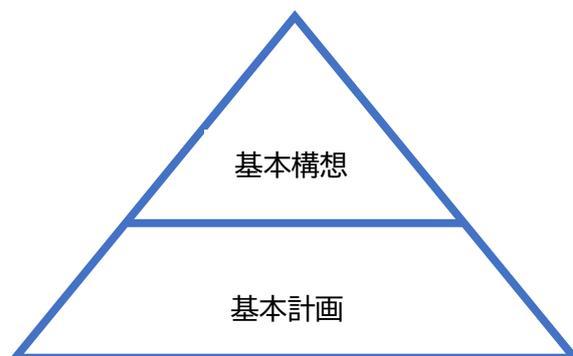
4. 総合計画の構成

基本構想及び基本計画で構成します。

(イメージ図は検討中)

- 基本構想 (10 年)
将来像 (目指す姿)
分野ごとの基本目標

- 基本計画 (5 年)
施策ごとの計画



○章 社会経済状況の変化と加茂市の特性・課題

1. 人口減少と少子高齢化

- ・ 加茂市の人口は、昭和 25 年 (39,887 人) から減少が続いています。国全体としては、平成 20 (2008) 年を境に人口減少局面に入りました。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所によれば、加茂市の人口は今後さらに減少し、2030 年には 21,696 人になると推計されています。
- ・ 出生数も減少傾向にあります。

2. 安全・安心への意識の高まり

- ・ 近年、全国各地で地震や台風、豪雨などの自然災害が発生し、頻発化、激甚化しています。
- ・ 市民アンケートでも防災や防犯に関心が高くなっています。(防災・防犯)

3. 社会経済や構造の変化

- ・ 2020 年に発生した新型コロナウイルス感染症は、経済や市民の生活に多大な影響を与えています。
- ・ 東京圏¹には、約 3,700 万人、日本の総人口の約 3 割 (2019 年) もの人が住んでいて、人口が東京に一極集中しています。
- ・ 加茂市から県外へ転出する人の 6 割が東京へ転出 (2020 年) しています。
- ・ 日本が目指すべき未来社会の姿として Society5.0²が提唱されています。Iot (Internet on Things) で人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことでさまざまな課題解決が期待されています。
- ・ 2030 年までの目標として「誰一人取り残さない」ことを誓って先進国が SDGs (持続可能な開発目標) に取り組んでいます。日本でも積極的に SDGs に取り組む自治体や民間企業が見られます。

4. 財政の深刻化

- ・ 生産年齢人口の減少などにより、市税収入の減少が見込まれます。
- ・ 財政の弾力性を判断する経常収支比率は高い状態で、財政が硬直化しています。

¹ 東京圏：東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県の一都三県のこと。

² Society5.0：狩猟、農耕、工業、情報に次ぐ新たな社会のこと。

5. 公共施設の老朽化

- ・ 多くの自治体で高度成長期（1954～1970 年）の頃に整備された公共施設、道路や上下水道などのインフラが一斉に更新時期を迎え、対策経費の増大・事故のリスクの高まりが懸念されています。

6. 自然・文化・伝統

- ・ 粟ヶ岳、加茂川、加茂山公園などの豊かな自然環境に恵まれています。
- ・ 伝統的な産業として、桐たんすや建具、組子、屏風などの「木製品」があります。

〇章 市民意識調査

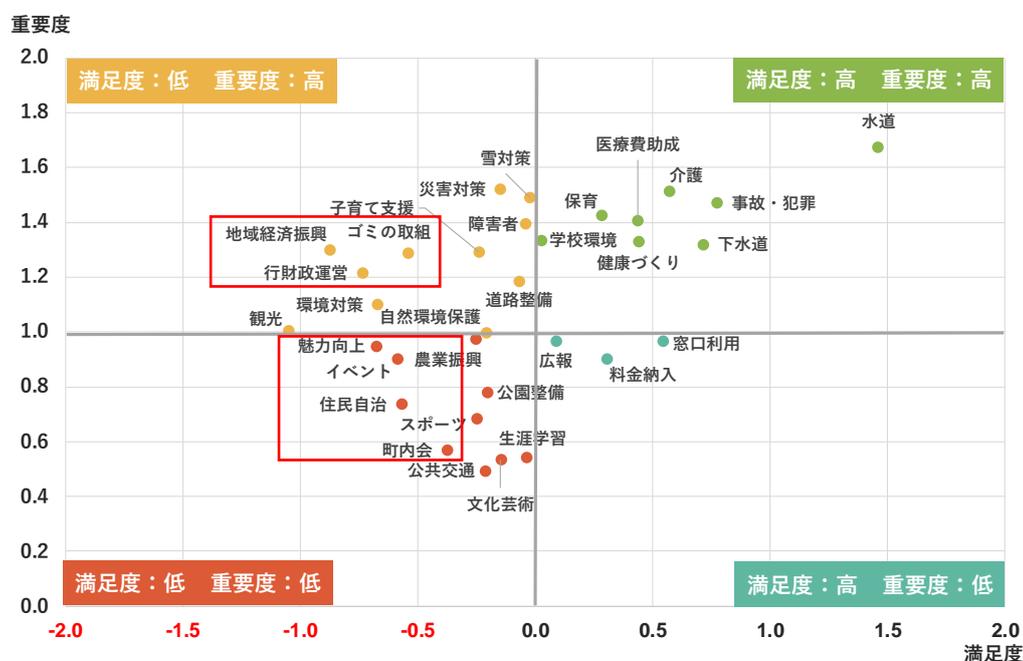
1. アンケートについて

総合計画の策定にあたり、市民の意識を調査するため、18歳以上の市民2,000人と市内の中学3年生を対象にそれぞれアンケートを実施しました。

(ア) 市民アンケート

市民アンケート調査では、「子育て、医療・福祉」、「生活環境」、「都市基盤」、「教育文化スポーツ」、「産業・観光」、「市民参画・行政運営」の6分野における、これまでの加茂市の32の取組（施策）について、満足度と重要度を調査しました。

（点数化などの詳細については、資料編参照）



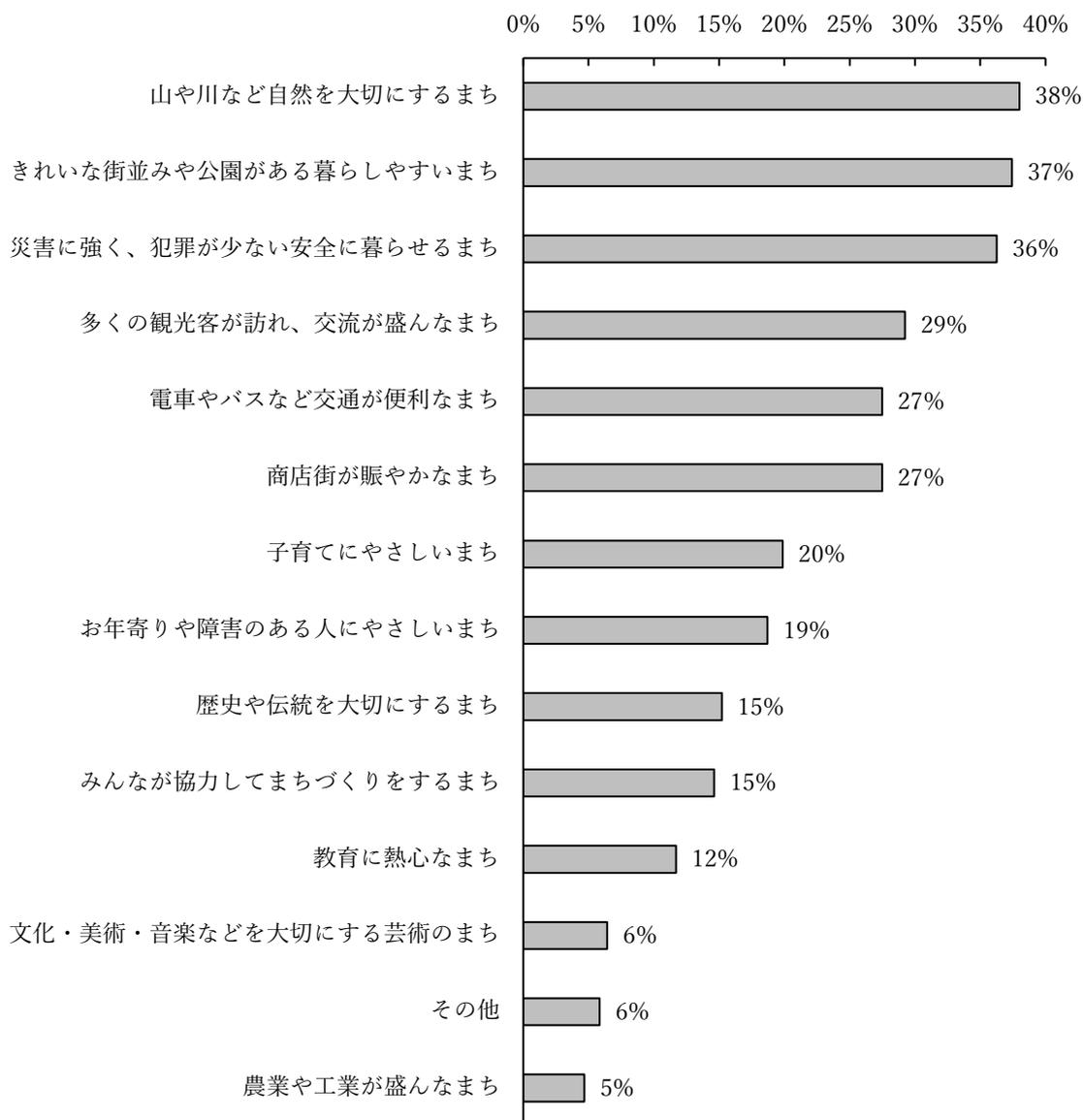
- 1) 「満足：高、重要度：高」：「水道」、「事故・犯罪」、「介護」、「下水道」
- 2) 「満足：低、重要度：高」：「地域経済振興」、「行財政運営」、「ゴミ減量等の取組」
- 3) 「満足：低、重要度：低」：「魅力向上」（まちの魅力向上、発信）、「イベント」（イベントによる市街地の賑わい）、「住民自治」、「町内会」（町内会等のコミュニティ活動）、「公共交通」
- 4) 「満足：高、重要度：低」：「広報」、「料金納入」、「窓口利用」

(イ) 中学生アンケート

中学生アンケートでは、加茂市がどんなまちになると良いか調査しました。

(グラフは、フォント・サイズなど調整中)

加茂市がどんなまちになると良いか



回答が多かったのは、「自然を大切にするまち」や「街並み・公園がある暮らしやすいまち」、「安全に暮らせるまち」です。

回答が少なかったのは、「教育に熱心なまち」、「芸術のまち」、「農業や工業が盛んなまち」です。

※一人につき3つまで選んで回答する設問のため、割合の合計は100%になりません。

2. 市民ワークショップについて

総合計画の策定段階から市民との協働により取り組むため、市民ワークショップを開催し、どんな課題があり、どんな取組が必要かなどについて話し合いました。

(概要をまとめ、内容は資料編に掲載する予定)

○章 加茂市の目指す姿

1. まちの将来像

総合計画においては、目指すまちの将来像を、次のとおり定めます。

「つながり 支えあい みんなでつくる 笑顔あふれるまち 加茂」

(将来像に込めた想い)

総合計画を策定し、まちづくりに取り組むことで、
人と人、地域と地域が、つながり
さまざまな世代の人々が、支えあい
一人ひとりがまちづくりに参画して、みんなでつくる
幸せ・喜び・安心でもっとたくさんの、笑顔あふれる
まち「加茂」を実現します。

2. まちづくりの基本目標

将来像を実現するために分野ごとの基本目標を、次のとおり定めます。

(1) 子育て・教育

未来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ育つまち

地域で子育てを支え、教育を充実させることで、子どもたちが心豊かに成長できるまちをつくりまします。

(2) 健康・福祉

ともに支えあい、だれもが安心して健やかに暮らせるまち

誰もが住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまちをつくりまします。

(3) 生活・環境、生活基盤

安全・安心で環境にやさしいまち

災害に強く安心して生活できるまちをつくりまします。自然環境に配慮したまちをつくりまします。

(4) 芸術・文化、スポーツ、自治・人権

学び、集い、ふれあって、自分らしく活動できるまち

生涯を通じて学びや芸術やスポーツに触れる機会を提供します。市民が自ら考え、地域で自分らしく活動できるまちをつくります。

(5) 産業・雇用、都市の魅力創造

人が集い、賑わいと活力があふれ、稼ぐ力と雇用を生み出すまち

地域の魅力を活かして、人が集まり、賑わいと活力のあるまちづくりを進め、経済を活性化させ働く場所を創出します。

(6) 行政活動

社会の変化に対応し、市民に寄り添い、未来への責任を担うまち

目まぐるしく変化する社会に対応し、市民の声に耳を傾け寄り添いながら、持続可能なまちをつくります。

〇章 まちづくりの基本方針

まちづくりを進める上での基本的な方針を、次のとおり定めます。

1. 人口減少に対応できるまちづくり

人口減少・少子高齢化が進むことで、老朽化した公共施設維持、財政運営、地域コミュニティ維持など課題が生じているほか、教育や福祉などの分野でもこれまでの取組では対応できない変化が起きています。人口と財政のバランスのとれたまちづくりを推進します。

2. 連携と協働によるまちづくり

市民と行政の連携だけでなく、国や県、他市町村などの地域間、分野横断的な政策間などさまざまな連携を図ります。市民や地域などと行政がそれぞれの役割を担いながら、協働してまちづくりを進めます。